

## 太平洋東西間でのシマイセエビ幼生の形態差

○ 張 成年 (水産機構中央水研)・松田浩一 (三重水研)

**【目的】** 熱帯・亜熱帯域に見られるシマイセエビ (*Panulirus penicillatus*) は本属で唯一太平洋の東西に広く分布する種である。中西部と東部個体群間では成体の色彩の違いがあることが知られていたが、近年の分子生物学的研究により遺伝的交流が無いことが明らかになった (Chow *et al.* 2011)。本研究では、太平洋の中西部と東部で採集した本種のフィロゾーマ幼生の形態差を検討した。

**【方法】** 2004年から2016年の調査航海でIKMT ネット、MOHT ネット及び表層トロールにより採取された幼生のうち、DNA 解析によってシマイセエビと同定された西部 (北緯 11-27 度, 東経 124-142 度) 80 個体, 中部 (北緯 25-26 度, 東経 175-西経 159 度) 2 個体, 東部 (北緯 2-4 度, 西経 96 度) 60 個体を形態観察に用いた。これらの幼生の体長 BL, 甲長 CL, 甲幅 CW, 胸幅 TW, 腹部長 AL, 眼柄長 EL を測定するとともに、Matsuda *et al.* (2006) の指標に従って成長ステージに区分し、同一のステージ間で両群の形態を比較した。

**【結果及び考察】** 観察した幼生の成長ステージは、6~10 期に区分された。ステージごとの個体数は、中西部群で 6 期 10 個体, 7 期 14 個体, 8 期 25 個体, 9 期 22 個体, 10 期 11 個体, 東部群で 7 期 48 個体, 8 期 7 個体, 9 期 2 個体, 10 期 3 個体であった。ステージごとの各測定値には両群間で重なりが認められたが、CW/CL 値, CW/TW 値に関して東部群は中西部群より有意に大きな値を示し、また 10 期に関しては最大甲幅を示す位置は東部群の方が前方にあった。CW/CL 値, CW/TW 値, 最大甲幅の位置によって両群の幼生を区別することが可能であり、幼生の形態においても分化が生じていることが示された。